



コバトン

病虫害防除情報

令和元年9月2日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 水稻のコブノメイガの多発生と防除について

2 情報内容

(1) 気象について

8月29日に気象庁が発表した関東甲信地方の1か月予報では、9月の平均気温は、高い確率が60%、降水量は平年並の確率が40%となっています。

(2) コブノメイガの防除

本害虫は、5月下旬以降に移植した地域で発生が確認されており、8月中旬現在で過去10年間で2番目に多い発生面積となっています。

多発すると、穂の出すくみや止め葉の食害による登熟不良となり、品質や収量が低下します。特に遅い移植や晩性品種では大きな被害を受けることがあります。

このため、水田での発生を確認したら被害が拡大する前に、薬剤による防除を実施しましょう。



図1 コブノメイガ成虫



図2 コブノメイガ幼虫



図3 幼虫の食害痕
(葉は白く表皮が残り、縦につづられる)



図4 食害が甚だしいイネ

表 コブノメイガの防除薬剤例

薬剤名	IRAC コード	使用時期	使用 回数
トレボンEW	3 A	収穫 14 日前まで	3
ルーバン粒剤	1 4	収穫 14 日前まで	4
ラディアントSC	5	収穫 7 日前まで	2
チューンアップ顆粒水和剤	1 1 A	発生初期但し、収穫前日まで	—

(使用基準は令和元年 9 月 2 日現在)

3 IRACコード及びFRACコードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、IRAC（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）及びFRAC（同連盟殺菌剤抵抗性対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/labomechanism.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蜜蜂や蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintourokujouhou.html?mode=preview>

問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 TEL：048-539-0661